

均衡の道への復帰

第5回国際会議「世界の均衡を求めて」

ボリビア多民族国 ダビド・チョケワンカ副大統領

2023年1月24日～28日 ハバナ（キューバ）にて発表

真理を知るためにこの世に生まれ、この世に来た者は、無知であることを我慢することはできない。真理を求める衝動は本物であり、反抗的であり、不屈である。なぜなら、欺瞞と破壊された真理の戦いにおける人間の苦しみは不自然なものだからである。真理を求める衝動は、自由と正義と生命の大マトリックスとの統一への回帰への渴望のようなものだ。

2023年、チョケワンカ

カパック（qhapaq）またはカミリ（qamiri）：心豊かな人々-安寧に生きる人々-に戻るために。

先住民は、不均衡と分断主義の世界に適応したことはありません。歌い、織り、踊り、種をまき、夢を見、収穫することをやめずに、植民地化に抵抗してきたのです。私たちは、火を灯し、生命の大マトリックスの中で振動する力とつながることを止めてはいないのです。

先住民の祖先から受け継いだ叡智は、すべての人のために輝く太陽のようなものです。その根源を受け入れてこそ、人類は自由になれるのであって、否定すれば支配され続けることとなります。

今こそ、人間のアイデンティティである心豊かな「qhapaq カパック」または「qamiri カミリ」、つまり「安寧に生きる人」「不均衡を超越した人」「安寧に生きるための相互補完性の力を取り戻した人」に戻るべき時が来たのです。

今こそ、「Iyambae イヤンバエ」、つまり無限のエネルギーの源からやってきた、主人のいない人間に戻る時です。個人と集団、南と北、東と西の間の兄弟愛と団結の道に戻る時が来たのです。

母なる大地と補完し合う関係を再構築する時が来たのです。

すべての領域で二重の生命創造のマトリックスを均衡させ、補完性の第三の力の意識を目覚めさせる時が来たのです。

理性と心、光と闇、ロゴスとカオス、上と下、満と空、左と右、強と弱、快と苦、あらゆる生命の表出が、不可分の有機的かつ体系的な補完性の中で共存できるようになる時が来たのです。

真理は非常に単純です。コンドルは、右翼と左翼の均衡が取れて、初めて飛び立つことができます。

コンドルは、無限のエネルギー源とつながり、高く飛翔するためには、両翼が相互補完的な状態にあることが必要なのです。

この重要な知の出会いの場で、私は、第 10 次 Pachakuti パチャクティ（変化の時代）における「均衡の道への回帰」に関する Abya Ayala アバヤ・アヤラの先住民の叡智を分かち合いたいと思います。

真理を独占するという学問的な偏見に陥ることなく、私たち先住民は歴史を生命そのものに結び付けています。自然界の二重の生命創造マトリックスの観察者である私たちは、均衡の状態、均衡を失った状態、混沌の状態にあるマトリックスを考えています。

私たちは、二重の生命創造マトリックスが一連の措置によって損傷を受け、第三の力である相互補完性が破られる可能性があることを知っています。

二元性の中の相互補完性の力を破るような、二元的な生命創造マトリックスに生じる損傷や劣化を、私たちは破壊行為と呼んでいます。

私たちは、先祖から、すべての損傷、変質、無秩序は、矛盾が出会い、対立が消え、相互補完性の力が大きくなると修復されることを学びました。

アイマラ語を母国語とする私の出身地には、「aruskipasipxañanakasakipunirakispawa アルスキパシプシャナカサキプニラキスパワ」という言葉があります。その意味は、「対話する」、「常に対話をする」という意味です。この言葉を使用する価値は、対話によって矛盾が発見され、合意によって対立をなくすことを示しています。対話と合意形成は、最高の紛争は対話と合意によって解体されるため、発生しなかったという真理に気づくアラマ（戦士）を目覚めさせます。対話と合意は、個人とコミュニティの中にある補完性の力を自然に活性化させ、均衡と調和を生み出します。

二元性の中の相互補完性についての知恵は、個人と集団の記憶の中で私たちの祖先から受け継いだ宝物です。知恵によって、破壊者や破壊の害に対する抵抗が生き続けたのです。先住民の言語を通して受け継がれ、姓に、循環論理の使用に、暗号に、織機に、儀式用織物に、ウィパラに、儀式の実践に、伝統に、踊りに、そして有名な JALLALLA ハヤヤ（万歳）のように、挨拶の仕方に残されています。

先住民の宇宙観と地質学・人類学の研究者によると、Pachakut パチャクティ（全般的な変化）の変化はおよそ 676 年ごとに繰り返されています。ロシアの人類学的地質学者であり、複合的アプローチによるトランス文明的概念工学の博士号を持つフラン・ザレフスキー博士によって確認されたとおりです。

現在の「変化の時」の体験は、「第 10 次 Pachakuti パチャクティ」と呼ばれています。1992 年に始まり、2030 年にその最初のサイクルが終わります。2019 年、「第 10 次 Pachakuti パチャクテ

「変動期」の緊張が最大となる時期が始まりました。恐怖と緊張の最高峰は、2020年に広がっています。2023年6月以降、すべての生命によって、その進歩的な改善が認識されるでしょう。

2020年の第10次 Pachakuti パチャクティの劇的な生存条件は、人類が自分自身を知り、不均衡を静め、第3の力の補完性の意識を目覚めさせることを要求しています。

第10次 Pachakuti パチャクティは、学問的パラダイムの権威主義と、万人の税金から作られた特許で富を築く人々の真理に対する独占を「追い詰める」ものです。真理の独占は、知識の生産を私有化し、無知を社会化することにのみ成功しています。各個人と各集団がその能力と特定の才能を発揮するときには、真理の独占は終わりとなるでしょう。

「黙示録の時代」「真理の啓示の時代」「西洋の文明的危機の時代」とも呼ばれる「第10次 Pachakuti パチャクティの時代」を理解するには、私たちは人間中心的なアプローチから解放され、コンドルの視点を身につけることが必要です。コンドルは、「生命の大マトリックス」への回帰を拒み、人類と地球の真理を破壊する、惑わす戦争を上空から深く見渡すのです。

今日、私たちがハバナで、世界中の先見性のあるヒューマニストたちが集まり、「均衡の道への回帰」について議論するこの学術的なイベントを開催するように、別の時間と場所で、生命と真理のマトリックスの破壊者たちは、私たちが「補完」と呼ぶ、生命のマトリックスに含まれる第3の力の自然の力を破壊し損傷することができる「力のシステム」を作り上げました。

二重生活マトリックスの破壊者たちは、破壊の技術において非常に成功しています。およそ676年ごとに、彼らはその力、破壊工作の技術革新を行い、そして犠牲者の同意を製造する能力を更新しています。

なぜ、世界は均衡を失っているのか。

会議のテーマ「均衡の道への復帰」は、私たちにこう問いかけています：なぜ世界は恒常的に不均衡にあるのでしょうか。

なぜ破壊工作は、人類の生命の二重マトリックスにおける相互補完性の第三の力の自然な働きを侵害することを目的としているのでしょうか。

二元性における相互補完性を破壊することと、権力の行使の間にはどのような関係があるのでしょうか。

人類における相互補完性の力の自然な働きを破壊するための一連の破壊手段とは何でしょうか。

人類の破壊者たちは、どのようにして犠牲者の同意を捏造するのでしょうか。

平衡への復帰は、なぜ漸進的な平準化の作業なのでしょうか。

オープン・ディクショナリーによると「サボタージュ」とは、報酬から利益を得るために、意図的に自然で正常な機能を変更、違反、損傷、破壊、劣化させることを意味します。同義語として、動詞「サボタージュ」は、秘密裏に妨害すること、ボイコット、共謀、陰謀、破壊、報酬から利益を得るための一連の秘密のサービスを意味しています。

提起された問題の解決に貢献する知識の領域は、「複雑なアプローチの下での文明的概念的知性、文脈、パラダイム、ツール、アプリケーション」に関する研究の理論的、方法論的貢献からもたらされています。それは、Tiawanakota ティワナコタ族の叡智とアンデスの存在論の貢献です。安寧に生きるための独自の理解-Suma Qamaña（共に安寧に生きる）の貢献です。相互補完的に生きる知恵 - Abya Yala アビヤヤ・ヤラ（繁栄した土地）の Qhapaq Ñan カパック・ニャン（インカの道）の文明化マトリックスです。Achachilas アチャチラス（守護の山々）が示すものです。

文明概念的知性の最大の貢献の一つは、すべての文明において、生命創造の二重マトリックスの破壊行為が、第三の力の補完性を侵害し、不均衡、分裂主義、および権力の行使を引き起こすという論理の検証です。

アンデスの先住民の存在論によれば、生命を創造するマトリックスは二重である（父と母）です。平衡状態にある二重のマトリックスは、生命の主体を無限のエネルギー源と一体化させる第三の力を自然に解放しています。私たちの祖先は、この強力な力を「補完性」と呼んでいます。また、「生命についての文化」や「安寧に生きる」に由来する「第三の包含物」とも呼ばれています。

二重のマトリックスが破壊され、均衡が崩れると、二重のマトリックスは無限のエネルギー源に直接存在することができなくなります。破壊工作の犠牲者は、二元性の中で補完し合うという彼らの自然なパターンを侵害した権力体系を通して、存在を感じます。

破壊たちが犠牲者の同意を非常に巧妙に捏造するため、無限のエネルギーの源における直接的な存在の喪失は現在に至るまで続いています。

破壊工作の唯一の受益者は、破壊工作を行うエリートたちとその運用者たちです。

破壊された人類は、均衡を欠き、第三のものが含まれず、無限のエネルギーとのつながりがないまま残されたのです。

このようにして、侵害された第3の力を持つ二重マトリックスは、破壊者たちによって固定化され、彼らは都合に合わせて不均衡を管理し、支配の関係を生み出し、権力を行使しているのです。

補完性の第三の力において行われる最も有害な破壊工作は、やはり知識の私有化と無知の社会化です。

破壊者たちは、知的財産保護の名の下に、そのような知識が、万人の税金によって私的な財団で生産されていることを考慮することなく、知識を乗っ取っているのです。

「開発のための外交」「食糧生産と技術革新のための外交」「気候変動のための外交」「健康外交」「科学技術のための外交」の悪名高い運営者たちは、知的財産の保護や災害や疫病の際の人命救助を放棄したまま、少数者の手に巨額の富をもたらす知識を具現化しました。

補完性の第三の力において実践される最も破壊的な破壊行為は、被害者にもたらされる害に対する被害者の同意を捏造することには変わりはありません。エリート破壊者たちは、世界で最も重要な安全保障機関、情報機関、従来の通信ネットワーク、オープン通信ソーシャルネットワークを所有しています。通信ネットワークを通じて、彼らは犠牲者の同意を捏造し、彼らが自由かつ自発的に、自由を放棄し、犠牲者としての地位を占めるようにしています。「兵法」の著者である有名な孫子は、「犠牲者の同意の捏造」を、「欺瞞によって、流血なしに服従させることにある最高の兵法」の観点から語っています。

アンデスの知恵と文明の概念的知性は、二元性の中の補完性の力をうまく破壊することが、不均衡、分裂主義、支配関係、権力行使の原因であることに同意しています。

破壊するエリートは、自分たちの都合に合わせて不均衡を作り上げ、支配関係を作り、権力の行使を保持し、利益を私物化し、損失を社会化するという点で一致しています。

彼らは、不均衡な状態での生命の二重のマトリックスが、少数の家族の幸運と世界の約 80 億人の人間の貧困に現れていることに同意しています。

破壊工作の成功は、破壊工作を行うエリートの生存の根拠となっていることに一致しています。

破壊工作の成功の論理は常に同じであり、問題、反応、解決という因果関係の連続に従うということに同意しています。

破壊工作の成功戦略は、「分割して統治し、勝利する」と「最も遅い者のペースで前進する」という2つの前提に基づいています。

第 10 次 Pachakuti パチャクティ、均衡に戻る途中の移行期間。

第 10 次パチャクティの変化は、資本主義が人類の心に課している障害と閉塞感を私たちに示しています。それは、地政学的な支配の恥ずべき征服には責任がなく、それを裁く権利も法廷もないことを示すものです。母なる地球の自然法則の墮落、土壌・水・空気・種子の汚染、人類と世界の分裂、飢餓・貧困・不平等の制度化、政治化された不正、汚職、犯罪、テロ、マフィア、戦争など、

法・権利・正義によって理解される支配の地政学の恥すべき征服の数々です。この3年間は、地政学的支配の征服リストを拡大し、パンデミックという大きな健康危機を、戦争、クーデター、金融危機、企業の倒産、失業、エネルギー危機、気候危機に追加しています。メディア全体主義は、犠牲者の同意をうまく製造し、恐怖、テロ、利己主義、不安、憎悪、暴力、強迫観念、狂信のエネルギーを大量に放出します。

破壊するエリートは、その顔を見せることなく、すべての人をすべての人に対して戦わせることに成功しています。この目的のために、新たな分裂、新たな不均衡を生み出し、既存の分裂を維持します。技術革新によって、不均衡をかき立て、あらゆる領域における生命の二重のマトリックスを極端に二極化します。それは、補完性という第三の力を回復させないからであり、そうすれば、その力の発揮が終わってしまうからです。

不均衡を作り上げることが生存の理由であるため、生と死、善と悪、憎悪と恐怖、左と右、健康と病気などをうまく破壊して対決させます。平和な時も戦争の時も、利益を私物化し、損失を社会化します。

破壊者たちの究極の目的は、不平衡の二元性を超越し、補完性の第三の力を活性化し、生命の源の無限のエネルギーとつながるといふ、人間の不可逆的な使命を混乱させ、先送りすることにあります。

第10次 Pachakuti パチャクティは、均衡のとれた生命を忘れてしまった女性や男性に、不均衡な二元性を超越する任務の一部を果たすよう要求することに、一歩も引かないでしょう。政治指導者に対しても、二元性を超越し、第三の力を解放し、国民のために戻る道を導く経験を共有することを要求していくでしょう。

支配の地政学から均衡の政治目標への移行。3つの戦闘シナリオ。

支配の地政学から均衡の政治目標への移行期における破壊と抵抗の戦いと攻防は、真理が明らかになる情報シナリオ、不正義が自壊する正義シナリオ、民主主義と政治家の心、南北の再極化が大きく揺れる政治シナリオの3つのシナリオで展開されます。

第一のシナリオは、民主主義とメディア全体主義における自由な思想と表現の社会的コミュニケーションと、ソーシャルネットワークにおけるオープンコミュニケーションの情報主義との衝突を形づくるものです。

過去2年間の大きな健康悲劇は、理性が集団的事実であり、真理がコミュニケーション行為であることを理解させ、1ヶ月足らずで人類を地球から麻痺させ、孤立させることに成功したのです。

恐怖、テロ、強制的な孤立のエネルギーは、誰も他の誰よりも優れているわけではないこと、危機の時には誰も一人では救われないという理解を人類の中に目覚めさせたのです。他者を否定する恐

怖を超越し、誰もが同じようにケアを受ける権利を持っていることを受け入れることが、すべての人の生存の理由となりました。公衆衛生への脅威は、伝統医学と学術医学の補完的で友好的な出会いのための条件を生み出しています。人類は、唯一の最良の解決策はなく、すべての解決策は代替案であることを理解しています。

第 10 次 Pachakuti パチャクティは、真理が誰にでもわかり、誰もが自分自身の結論を導き出すことができるため、非常に恵まれた時代と言えます。真理を知り、自分が何を望んでいるかを知っている人は、騙したり操ったりすることが非常に難しいのです。

第 10 次 Pachakuti パチャクティの変化の通過は、地政学的支配の古いシステムのエンジンを停止し、エリートによって秘密にされている機密情報を公開しています。同時に、発表された真理を操作し、混乱させる有効な手段として、誤った情報の自由な流通があるのを、私たちは目にしています。

新しい文明の地平が明らかになり、補完性の第三勢力の意識が解放される一方で、破壊者たちは世界再植民地化 2.0 とソーシャルメディアを通じて人々の心に対する専制支配を行おうと試みています。エティエンヌ・ド・ラ・ボエシの「自発的隷属に関する言説」の中で、「私たちの自由か服従かの鍵は同意にある」と警告している思想は、均衡に戻るための光明です。

破壊活動をするエリートはこれを知っており、普遍的価値の擁護というレトリックの陰で、犠牲者の同意を捏造しているのです。メディア主義、情報主義、テレビ主義の全体主義を駆使して、罪悪感や恐怖心を煽り、憎悪と狂信の間で戦い、ジェンダーと性的墮落との戦い、飢餓、国家、民族、地域と対峙している気持ちを一般化させるのです。

今こそ、人々の心に対して無意識に行使される専制政治こそが真の専制政治であることを理解し、意識を喚起する時がきました。なぜなら、専制政治は、それを理解し、それに同意しない限り、戦うことはできないことを悟り、意識を目覚めさせる時です。

2023 年の中頃から、破壊勢力は徐々にその勢いを失っていくでしょう。二元性を超越した人類の一部は、補完性の第三の力が解放された均衡によって、不均衡を標準化にしていくでしょう。

均衡への移行期の第 2 の戦闘シナリオは、司法制度における改革の猛攻です。

自分のルーツやコミュニティから疎外された人間は、混乱し、自然の法則からますます遠ざかっていきます。分裂と不均衡の中で自由を動かすように運命づけられている者は、すべての人とものを統合する均衡のとれた生命を忘れてしまいました。

原始民族の叡智によれば、生命はすべての法に先行し、権利そのものの基礎となるものです。

私たちは権利を、生命の二重のマトリックスと、均衡と調和の起源である補完性の第三の力を破壊しないこと、侵害しないことを保障するものと理解しています。

私たちは、正義の基盤とは、生命の豊かさから生まれるものをすべての人やすべてに届けることを保障するものと、理解しています。

生命がすべての権利の基盤であることを理解することで、権利は与えられるものではなく、二元性の中の補完性の第三の力が侵害され、損なわれたときに現れるものだと、私たちは指摘します。

死の文化の法律、権利、正義は、生命の二重の封印における補完性の第三の力を修復し、回復させるための保障にはならないのです。司法制度により生み出された刑罰と監視のさらなる破壊を追加する保障です。

文明の危機の頂点にある今、法律、権利、正義の分野における改革を推進することは、政治指導者の義務です。すべての人、すべての生命創造する主体として認識し、生命そのものに含まれる権利の宇宙を確立すること。

先住民の世界観によれば、権利は国家が生み出した教義や法律の裁きから生じるのではなく、生命の自然法則そのものに基づくものです。私たちは、すべての生物の権利が、国家によって作られたいかなる法律よりも優先され、生命が法律そのものの基礎であることを理解しています。

「生命の文化」として理解される私たちの世界観では、自由は生命に優先するものではなく、財産が自由を決定するものでもないのです。

自己中心主義や人間中心主義は、何世紀にもわたって、あらゆる集団やあらゆる関係から疎外された個人を形成してきました。支配の関係においては、支配する側もされる側も、誰も自由ではないことを理解せずに、支配的な態度で生命の所有者を形成してきました。だからこそ、私たちは生命の所有者ではなく、生命に属し、生命に借りがあり、私たちは生命を育て、生命は私たちをはぐくんでいるのです。この関係によって、私たちはあらゆる支配から解放されるのです。

私たちの民族にとって、自由とは私有財産やその保証人である国家によって決定されたものではなく、生命の恵から生まれる産物の所有者であるとは考えていません。母なる大地は私たちにとって神聖なものであり、揺るぎのないものであるため、商品とはみなしていません。なぜなら、私たちは母なる大地に属しており、母なる大地に借りがあり、母なる大地に育てられるように、私たちも母なる大地を育てているからです。

したがって、人権は、母なる大地との重要な関係から切り離された個人から始まるのではなく、母なる大地と対応し、補完しあうものでなくてはなりません。だからこそ、私たちは母なる大地との再会を必要としているのです。なぜなら、娘や息子の命が母親の命に依存しているように、母親の権利は子供たちの権利に優先するからです。

ボリビアからは、私たちは、聖なる湖チチカカを生きた権利の対象であると宣言され、その結果として政治的・社会的責任が発生するように働きかけています。

世界の均衡への移行期の第3の戦闘シナリオが、政治の舞台で起こっています。

西側の権力の中枢からの世界支配という地政学的危機の中で、破壊エリートが技術革新を生み出し、北半球 2.0 と南半球 2.0 の間で世界勢力の再分極化を進めています。

技術革命による南北再分極化のプロセスは、国際秩序 2.0 の持続可能な基準を動かし、今後 676 年間の破壊エリートによる権力行使の土台となるものです。

同時に、大地、空気、水、火という自然の4つの力の大浄化が、世界中で目に見える形になってきている。破壊活動員エリートのオペレーターは、自然の大浄化の嵐を、気候変動の現実にも関わらず、被害を修復せず、自然の4つの力の循環の崩壊を修正しない議題や計画を実行するための論拠として利用しています。HAARP（ハーブ）のようなプログラムの介入主義、冷酷な採取主義政策、死の崇拜、分断主義、金の崇拜がもたらす破滅的な結果は、人類から隠されています。

こういうシステムが人類という種の中で、そして人類と自然の間で達成した無神経さは、国際秩序 2.0 の技術政治の運営者たちによって、人間を自然から完全に切り離す方向へと追い込まれています。2016年の著作『ホモ・デウス（神の人）』で人体や自然をハッキングすることが可能だという説を唱えた、国際秩序 2.0 に仕える知識人、ユヴァル・ノア・ハラリは、意識や自然生命に対する人工知能や人工生命の優位性を前面に打ち出しています。ハラリは、権力とその確実な実行様式を維持するためには、すべての政治構造、社会組織、人類、自然をデータ処理システムとして捉えなければならないと主張しています。ハラリは、データ主義では宇宙全体をデータの流れとして認識し、あらゆる生命現象や生命体の価値は、データ処理への貢献度によって決まると主張しています。データ主義は、国家主権、個人と集団の安全保障、自由を脅かす危険な議題を復活させることを目的としています。それは、人間や生命の性質や地位の定義そのものを脅かすようなデジタル独裁を生み出そうとしているのです。技術革命、人工知能、人工生命、テクノポリスは、クラウド・シュワブが国際報道機関に向けて宣言したように、「何も持たずに幸せになる」という理想を人類に提供しています。

支配のテクノポリティクス 2.0 が、世界秩序の破壊者たちによる権力行使のために世界を安全にするふりをしている状況の中で、世界の先住民は、人類と地球の安寧な生活のための均衡への回帰の政治的な頂点に位置しています。

「皆と共に歩み、誰一人取り残されることなく、皆で全てを手に入れ、誰一人欠けることなく」という、均衡を取り戻している途中にあるのです。

生命の表出における二元性の中の補完性の封印を破壊する国際秩序 2.0 の持続可能性基準は、そのエネルギー源から徐々に不活性化されていくでしょう。

破壊者たちは、地球上の全人類の 1%が、補完性という第 3 の力を解放することによって、地政学的支配の覇権を不安定にすることに気づいていないのです。破壊者たちは、均衡への回帰の道を破壊し混乱させることはできても、それを止めたり排除したりすることはできないのである。といたしますのは、私たちは、Wiñay Marca 国民全体なのですから。

姉妹よ、兄弟よ! Jallalla (万歳)

世界のみなさん! Jallalla (万歳)